

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ 全体まとめ

地区	蒲郡北地区	回数	第6回
日時	2021年12月26日(日) 13:30-16:30		
参加者数	14名		

1. 地区の将来にとってふさわしい案

(1) A案

【期待すること・選択した理由】

中央小の分割、中部中の蒲郡中への統合、中央小学区から西部小や北部小への通学、小中一貫教育に懸念がある。また、保育園に関しては3園から2園に統合すべきだと思う。

- ・ ①適正な規模にある中央小学校を敢えて分ける必要はない、②中央小学校の児童が西部小や北部小に通うのは遠いので避けたほうがよい、③この地区で保育園が3つは多いので2つに絞り込むのがよい、④中部中学校と蒲郡中学校の統合は規模が大きくなりすぎるので避けるのがよい、⑤小中の一貫教育について心配が残る。以上のことを考慮して、消去法でA・F案を選択した。(A・F案共通)

【懸念・付帯事項】

学区と総代区がバラバラになってしまうことが気になる。小学生を地域で見守るためにも各地域に小学校と公民館があることが大事である。

- ・ 新しい中部保育園と中央小学校・西部小学校を集めて、西部公民館を合流すると学区と総代区がバラバラになってしまうことが気になる。また、蒲郡公民館と中央小は今までも連携しているため、地域それぞれに小学校と公民館があることが大事である。
- ・ 北部小と西部小が統合する案について、学区が広がることでPTAの意見がまとまりにくくなったり、小学生を地域で見守る関係も薄れてしまうことが懸念される。(A・B・E・F・G案共通)

今までのつながりを分断することは避けたほうが良いので、西部小は国道で分割するのではなく全員を北部小へ統合するほうがよいと思う。

- ・ 西部小学校を国道で分割する案になっているが、分割するのではなく全部が北部小学校に統合するほうが良いだろう。これまでの繋がりを分断するのは避けたほうが良い。

維持更新費用の縮減額が少ない。

- ・ 思ったよりコスト面でのメリットがなく、敢えてこれを選びたいと思わない。

(2) B案

【期待すること・選択した理由】

学校は集約されるものの、公民館施設が西部・北部地区に地元管理で残る点が良い。

- ・ 中部中敷地に 2 つの小学校が集約される一方で、西部地区と北部地区それぞれに公民館施設が地域運営で残る点が評価できる。

保育園の送迎は自動車で行っているため、地区の南北に 1 園ずつ残し、一定の園児数を確保したほうがよい。

- ・ 保育園の統廃合は、北と南に一つずつあることもあり、元々車で送迎しているため立地としては賛成。あとは定数確保することが良いと考える。

維持更新費用が少なく済む。

- ・ 単純にランニングコストが他より 10 億円安い。

中学校区が広がってもコミュニティとしては問題ない。

- ・ 小学校区は小さいコミュニティと紐づいているが、中学校区のコミュニティは大きくふんわりとしたコミュニティなので、学区が広がっても問題にならない。

中学校の統合は、子ども達の体力や地域活動の面からも影響が少ないのではないかと。

- ・ 中学校の統合は、中学生への影響は少ないと考える。
- ・ 中学校は蒲郡中学校に統合しても子どもたちに体力がついているし、学区のエリアがひろがっても地域活動に影響はあまりないので良いと考える。

中学校に関しては昔と同じ形なので問題が少ない。

- ・ 中学校視点で見ると中部中が出来る前と同じ形なので、問題が少なそう。

【懸念・付帯事項】

中学生が蒲郡中へ通う場合、通学距離が長くなるため、安全面や防犯面で配慮が必要だ。

- ・ 中学生の通学距離が長くなり交通安全や防犯(部活で遅くなるなど)で心配が増える。何らかの対策が欲しい。(B・D案共通)
- ・ 中学生は自転車で通学ができると思うが、安全に通学できるかどうか、配慮が必要だろう。自転車であっても安全な通学路の確保をする必要がある。

中学校の規模が大きくなりすぎてしまうのではないかと。

- ・ 中部中が蒲郡中へ統合するのは、規模が大きすぎて良くないと考える。
- ・ 中学校が大きくなりすぎてしまうのではないかと。

小学校区が広がることでPTAの意見がまとまりにくくなったり、小学生を地域で見守る関係が薄れてしまうのではないかと心配だ。

- ・ 北部小と西部小が統合する案について、学区が広がることでPTAの意見がまとまりにくくなったり、小学生を地域で見守る関係も薄れてしまうことが懸念される。(A・B・E・F・G 案共通)

中央小は蒲郡公民館と離れていても連携が取れているため、同じ敷地にする必要はない。

- ・ 小学校と公民館が同じ敷地に立地するかどうかは地区によって考え方があると思う。中央小は離れていても連携はとれているので、同じ敷地になることは反対。

(3) C案

【期待すること・選択した理由】

西部地区に小学校または中学校を残したい。特に、小学生は地域のなかで育つことが大切である。

- ・ 西部地区から公共施設(学校機能)が失われるのは避け、小学校または中学校が地区に残るのが良い。特に小学校(生)は地域で育てる、地域の目があるなかで子どもが育つことが大切だと思う。(C・F 案共通)

少子高齢化が進むことが予測されるので、小学校と公民館、保育園が隣接し世代間交流が育まれることは好ましい。

- ・ 将来的に少子高齢化が進むことが予測される。そのなかで、小学校と公民館が隣接し世代間交流(小学生と高齢者)が進むのが良いだろうと思う。(C・E・F 案共通)
- ・ 小学校に公民館と保育園が複合するのは多世代交流の視点から好ましいと考える。先日見学した府相公民館が参考になり、バリアフリーや小学校と公民館の交流がとても良いと思った。(C・F 案共通)
- ・ 先日府相公民館を見学したが、子ども達の声が聞こえるのがよいと思った。高齢者が公民館で活動していても子どもの声が聞こえることで元気がもらえると利用者から聞いた。

小学校と公民館が同じ敷地内にあると、大人の目が行き届くため、子どもが安全に遊ぶことができる。

- ・ 西部小の子供たちは小学校で遊んでいる子が多く、小学校の敷地に公民館があれば、より見守りもあり、安全な遊び場になると考える。(C・F 案共通)

小学校と保育園、児童クラブの集合は、子育ての面において好ましい。

- ・ 子育てをしている立場から、小学校と保育園、児童クラブが統合されているのが良い。(C・F 案共通)

西部小の児童数を確保するためであれば、中央小を分割するのも良いのではないか。

- ・ 西部小学校の児童規模を維持するためならば、中央小学校を分割するのも良いのではないか。

【懸念・付帯事項】

西部小の児童数が少ないのは、デメリットである。

- ・ 西部小は児童数が少ないデメリットはある。

適正規模の中央小をあえて分割するのは好ましくない。

- ・ 適正規模になっている中央小学校をあえて分割する案は良くない。総代区との不整合についてはそちらを是正する可能性もある。(C・E案共通)
- ・ 中央小の学区を分割することが気になり。

(4) D案

【期待すること・選択した理由】

全ての世代にとって重要な「地域性」を維持できる。子どもを地域で見守り育てるような人間関係はコミュニティが小さいほど強いと思う。

- ・ 一番大切にしたい案はD案。すべての世代にとって「地域性」が重要で、それを維持できる案だから。「地域性」とは、住民の交流もそうだが、子どもを地域で見守り育てるような人間関係のある環境のことで、地域が小さければ小さいほどそれが強い。徒歩で通う小学生や、徒歩の生活圏で暮らす高齢者のような弱者にとって特に地域性は重要と思う。

3つの小学校が残る点が良い。

- ・ 地域の拠点として3つの小学校が残るのが良い。

3つの保育園が残るため、待機児童の面でも心配が少ない。

- ・ 保育園が3園残るので、待機児童の心配が少ない。

避難場所や高齢者の居場所として、北部地区と西部地区に公民館が残る点が良い。

- ・ 北部と西部にそれぞれ公民館が残ることが良い。万が一の時に緊急避難場所が近くにあることになるし、高齢者にとっては近くに気軽に行ける居場所があることが良い。

縮減額は少ないが、規模の再検討などで縮減を図り、小規模でもよいので各地域に施設を残したい。

- ・ コスト縮減額が少ない案だが、地域性を損なわないように地域ごとに施設を集約した

り、部屋数等の規模を縮小することで縮減するのが良いと思う。

- ・ 先日見学した府相公民館は、小学校と公民館が複合化していて、地域子ども達が描いた絵などを家族以外の高齢者や地域の人が自然に見たり、日常で気軽に一緒に遊ぶことができる環境がとてもよかった。府相公民館程立派な施設でなくてもよいので地域に残してほしい。

中学生は自転車通学のため学校への距離が伸びても構わない。

- ・ 中学校を1つ廃止する方向は良いと思う。自転車通学もあり距離があっても可能だ。
- ・ 中学校は統合されるが、中学生は自転車通学など地域を超えて行動するので構わない。

学校規模が小さいことはタブレット端末等を用いた交流の機会を設定すればある程度改善できると思う。

- ・ 小学校の規模が小さいことがデメリットとして挙げられるが、タブレット端末などを使って他校との交流を深めればある程度改善できると思う。今でも、西部保育園と北部保育園は互いに遊びに行くなど交流を行っている。

【懸念・付帯事項】

平等な教育という視点では、西部小の児童数ではデメリットとなる。

- ・ 平等な教育を受けさせる視点では、ある程度子供の人数がいることが重要で、その点から心配の多い案である。
- ・ 児童数の少ない西部小学校では部活が少なく、中学へ行ったときに経験のない部活に入りにくいと感じるため、児童数の面ではデメリットである。

中学校の統合は学校規模や通学距離の面で心配だ。

- ・ 中部中が蒲郡中へ統合するのは、規模が大きすぎてよくない考える。また、通学距離が長くなり交通安全や防犯で心配が増える。
- ・ 中学生の通学距離が長くなり交通安全や防犯（部活で遅くなるなど）で心配が増える。何らかの対策が欲しい。
- ・ 中部中学校と蒲郡中学校が統合することで、大きくなりすぎてしまうのではないかと懸念がある。

保育園の駐車場が少ないことが懸念だ。

- ・ 保育園の送迎用駐車場が少ないことが懸念事項だ。

将来の財政負担の大きさが、一番のデメリットである。

- ・ 将来の財政負担が大きくなるのが一番のデメリットになる。

明確な基準がないため、財政負担に関して判断が難しい。

- ・ 財政負担が許容範囲なのかどうか明確な基準がないので判断が難しい。

(5) E案

【期待すること・選択した理由】

少子高齢化が進むことが予測されるので、小学校と公民館が隣接し世代間交流が育まれることは好ましい。

- ・ 将来的に少子高齢化が進むことが予測される。そのなかで、小学校と公民館が隣接し世代間交流（小学生と高齢者）が進むのが良いだろうと思う。(C・E・F案共通)

蒲郡公民館が残り、中部中の敷地に公民館を集合することで、地区の南側と北側それぞれで世代間交流が促進される。

- ・ 蒲郡公民館が残り、北側では中部中学校の敷地に公民館も集合するので、地域の世代間交流の視点でよいと思う。

今の教育制度は古いものになっており、小中一貫教育にしていく方向が良いと思う。そう考えると小中学校が隣接している方が良い。

- ・ 子どもの成長が昔に比べて2年程度前倒しになっているなかで、今の教育制度は古いものになっている。個々の学力や能力のばらつきが生じているなかで、一斉教育も合わなくなってきたのではないか。小中一貫校、義務教育学校(9年間)にしていくのが良いだろうと思う。そう考えたときに、小中が隣接しているのが良いと思う。ただし中央小学校を解体するというデメリットはある。(E・G案共通)

維持更新費用が2番目に少ない。中央小の跡地利用や売却によるメリットも得られそうだ。

- ・ 2番目にコストパフォーマンスが良いことが評価できる
- ・ 中央小がなくなるが跡地利用か売却でイニシャル面でのメリットも得られそう。

【懸念・付帯事項】

適正規模の中央小をあえて分割するのは好ましくない。

- ・ 適正規模になっている中央小学校をあえて分割する案は良くない。総代区との不整合についてはそちらを是正する可能性もある。(C・E案共通)

小学校区が広がることでPTAの意見がまとまりにくくなったり、小学生を地域で見守る関係が薄れてしまうのではないかと心配だ。

- ・ 北部小と西部小が統合する案について、学区が広がることでPTAの意見がまとまりにくくなったり、小学生を地域で見守る関係も薄れてしまうことが懸念される。(A・B・

E・F・G 案共通)

(6) F 案

【期待すること・選択した理由】

北部小と西部小のどちらかに統合するのではなく、中部中敷地に新しい小学校ができる点がよい。

- ・ 北部小と西部小がどちらかに統合するのではなく共に移動して中部中敷地に新しい小学校ができる点が一番よい。
- ・ 集約するときどこかの小学校に統合し、どこかが廃止するというのは疑問を感じるので、新しい小学校として集合する点が良い。

1カ所に施設を集約することで、効率的で厚みのある教育が実現でき、住民や児童の交流も深まり地域が活性化する。

- ・ 中部中学校敷地1カ所にできるだけ集めた方が住民や児童の交流が深まると考えるため、F案が一番いいと思う。2つの小学校が1つになり、公民館や児童クラブが複合することで、効率的に厚みのある教育が実現できると考える。中央小も保育園と合わさることで同様の効果が期待できる。

将来の負担を考えると統廃合は必要である。その場合、適正規模の中央小を分割するよりも、北部小と西部小を中部中敷地で統合したほうが良いだろう。

- ・ 将来の負担を考えるとどこかが統廃合をしないといけないと考える。その場合は北部小と西部小が統合するのは避けられない。(中部中敷地で統合すれば両地区に影響が少ない。また適正規模の中央小を分割する案は考えにくい。) (F・G 案共通)

未来の子ども達に負担を増やすより、未来に向かって新しい拠点を作りたい。

- ・ 母校をなくすのは残念だが、未来の子ども達に負担を増やすより、未来に向けて新しく拠点を作る方が良いと思う。新しい方向に進むために話し合っているので、良い案と考える。

現在の小学校区に分断が生じない点が良い。

- ・ F案は小学校の分断(西部小や中央小)が生じないので、良いだろう。

西部小敷地に中学校ができれば、地区に教育拠点が残り、地域の活力を維持できる点が評価できる。

- ・ 西部小敷地に中学校ができるので西部地区にも教育拠点が残って良いと思う。
- ・ 西部地区から公共施設(学校機能)が失われるのは避け、小学校または中学校が地区に残るのが良い。

- ・ F案が最もよい、西部小学区に中学校ができて地域に施設が残り地域の活力が維持できる点が評価できる。
- ・ 西部地区も小学校敷地に中学校ができて子どもが集まる状況が維持できるし、学校施設を地域で活用するなど地域も活性化できると思う。

主任児童委員など効率的な人員配置を考えると、保育園を集約するのが良いだろう。

- ・ 主任児童委員の方が3つの保育園を掛け持ちされていてみるのも大変だと聞く。効率的な人員配置を考えると、保育園を集約するのが良いだろう。

小学校と公民館、保育園の集合は、多世代交流の視点から好ましい。

- ・ 小学校に公民館と保育園が複合するのは多世代交流の視点から好ましいと考える。先日見学した府相公民館が参考になり、バリアフリーや小学校と公民館の交流がとても良いと思った。(C・F案共通)

小学校と公民館が同じ敷地内にあると、大人の目が行き届くため、子どもが安全に遊ぶことができる。

- ・ 西部小の子供たちは小学校で遊んでいる子が多く、小学校の敷地に公民館があれば、より見守りもあり、安全な遊び場になると考える。(C・F案共通)

小学校と保育園、児童クラブの統合は、子育ての面において好ましい。

- ・ 子育てをしている立場から、小学校と保育園、児童クラブが統合されているのが良い。(C・F案共通)

北部小が中部中敷地に移っても問題ないと思う。

- ・ 北部小が中部中敷地に移っても北部地区からみて影響はあまりないと思う。

西部小周辺の土地買収について、問題となることは少ない。

- ・ 西部小の敷地に中部中が入ることについては敷地の確保が問題になっているようだが、周辺環境を見ても、敷地の買収などに問題となるようなことは少ないと考える。

中央小の分割、中部中の蒲郡中への統合、中央小学区から西部小や北部小への通学、小中一貫教育に懸念がある。また、保育園に関しては3園から2園に統合すべきだと思う。

- ・ ①適正な規模にある中央小学校を敢えて分ける必要はない、②中央小学校の児童が西部小や北部小に通うのは遠いので避けたほうがよい、③この地区で保育園が3つは多いので2つに絞り込むのがよい、④中部中学校と蒲郡中学校の統合は規模が大きくなりすぎるので避けるのがよい、⑤小中の一貫教育について心配が残る。以上のことを考慮して、消去法でA・F案を選択した。(A・F案共通)

30年くらい先になると児童の数もかなり減り、統合しても少人数教育を実施できる可能性がある。また、西部地区だけでは地域が成り立たなくなる可能性もある。

- ・ かなり先の将来例えば30年後くらいならばF案でもよい。そのころには児童の数もかなり減って統合してもある程度小規模の教育環境となっている可能性がある。
- ・ 西部地区だけで地方自治が維持できなくなった場合にはF案の必要性が高まると思う。

【懸念・付帯事項】

敷地の確保ができるのかが懸念だ。

- ・ 敷地の確保が出来るのかが懸念事項である。
- ・ 中部中敷地に集約すると運動場敷地の確保は出来るのか、買収がどうなるか懸念される。

小学校区が広がることでPTAの意見がまとまりにくくなったり、小学生を地域で見守る関係が薄れてしまうのではないかと心配だ。

- ・ 北部小と西部小が統合する案について、学区が広がることでPTAの意見がまとまりにくくなったり、小学生を地域で見守る関係も薄れてしまうことが懸念される。(A・B・E・F・G案共通)

西部地区のつながりを維持できるよう、現西部小敷地に設置される中学校にコミュニティ施設を設置してほしい。

- ・ 西部小学校を残す案が一番良いが、もし地方自治が維持できなくなりF案のように西部小が統合される場合でも、西部地区の人間関係が維持されるように、西部小敷地の中学校にもコミュニティ施設を設置してほしい。

(7) G案

【期待すること・選択した理由】

北部小と西部小が共に移転して新しい小学校となる点や、両校にとって通学等の影響が少ない点がよい。

- ・ 北部小と西部小が共に移転して新しい小学校ができる点や、双方にとって通学の影響が比較的少ない点で評価できる。
- ・ 将来の負担を考えるとどこかが統廃合をしないといけないと考える。その場合は北部小と西部小が統合するのは避けられない。(中部中敷地で統合すれば両地区に影響が少ない。また適正規模の中央小を分割する案は考えにくい。)(F・G案共通)

今の教育制度は古いものになっており、小中一貫教育にしていく方向が良いと思う。そう考えると小中学校が隣接している方が良い。

- ・ 子どもの成長が昔に比べて2年程度前倒しになっているなかで、今の教育制度は古い

ものになっている。個々の学力や能力のばらつきが生じているなかで、一斉教育も合わなくなっているのではないか。小中一貫校、義務教育学校（9年間）にしていくのが良いだろうと思う。そう考えたときに、小中が隣接しているのが良いと思う。ただし中央小学校を解体するというデメリットはある。（E・G案共通）

【懸念・付帯事項】

施設が集約し交流が深まることは評価するが、西部地区にまったく施設が残らないのが懸念だ。高齢者が集まる場所は今の地区ごとにほしい。

- ・ 施設が1カ所にまとまっている点は交流が深まるので評価するが、西部地区にまったく施設が残らないのでF案の次案と考える。
- ・ 西部地区や北部地区といった地域ごとの高齢者が集まれる場所も統合されると、身近に通える施設がなくなるのが心配なので、高齢者が集まれる場所は今の地区ごとにほしい。

小中一貫校には不安がある。

- ・ G案は「小中一貫校」の可能性があるが、「小中一貫校」については未知で不安が残る。

小中一貫もしくは隣接配置となる場合に、中央小のみが別敷地に整備されると教職員の負担になるのではないか。

- ・ 小中一貫や同敷地に隣接する学校と、中央小のように独立している場合とのパターンがあるので、運営上担い手となる先生方には懸念があるのではないだろうか。

小学校区が広がることでPTAの意見がまとまりにくくなったり、小学生を地域で見守る関係が薄れてしまうのではないかと心配だ。

- ・ 北部小と西部小が統合する案について、学区が広がることでPTAの意見がまとまりにくくなったり、小学生を地域で見守る関係も薄れてしまうことが懸念される。（A・B・E・F・G案共通）

感染症の影響で人数を制限する行事が増えているため、大きな学校になるのは不安である。

- ・ 近年のコロナ禍で人数制限の行事が増えている。そのような中で大きな学校になるのは不安である。

(8) 全ての案に共通する付帯事項（再配置を進めるうえで配慮すべき事項）

① 地域での活動・交流のしやすさ

自ら選択して地域を超えた活動をしている方もいる。地域にこだわりすぎることなく、蒲郡全体で考えたほうがよい。

- ・ 市民活動（公民館活動）などは物理的な地域（地縁）を超えて活動されている方もいる。選択してつながりを作っている人が増えている。再配置などを考える際に、地域にこだわりすぎることによって改革が窮屈になってしまってもいるのではないかと。地域を解体するとか守るとかの視点ではなく蒲郡全体で考えたほうがよいのではないかと。

小学校と公民館はアイデンティティとして地域に残してほしい。

- ・ 小学校と公民館は地域にアイデンティティとして残してほしい。

② 学校教育環境のあり方

教員が教育に専念できるよう、学校と地域は更に連携を強化する必要がある。地域のなかで子どもを育てていく環境をつくっていくのが良い。

- ・ 地域と学校は更に連携を強化する必要があるだろう。学校が抱えている問題（躰や部活動など）を地域に頼っていくことも必要。教員が子どもの学力に専念できるようにしていくのがよいだろう。地域のなかで子どもを育てていく環境をつくっていくのが良いだろう。

小中一貫教育や小中隣接配置となる場合には、越境入学を認めるなど柔軟な運用を検討してほしい。

- ・ 特にG案などは小中一貫か小中隣接の場合と、中央小のみ独立している場合とあるため、越境入学も一緒に選択出来ると柔軟な運用が出来るのではないかと。

小中一貫となる場合、3学年ごとのブロックにするなど枠組みを再検討してはどうか。

- ・ 9年間一貫にするのなら、小中高など3学年ごとのブロックにするなどして考えていくのが良いだろう。

市内に小中一貫校になる学校とそうでない学校があると、市民から様々な意見が出てくると思う。全市的な方針を定めたほうが良い。

- ・ 小中一貫校になる学校とならない学校があるというバラツキが市内にあることで、さまざまな声（要望など）が出てくるのではないかと？それに行政は応えられるのか？全市的な方針を定めたほうがよいのではないかと。

今の中学校区に縛られることなく大胆に小学校区を編成し、小中一貫校の設置を考えても良いのではないかと。

- ・ 小学校の学区もダイナミックに編成することを考えても良いのではないかと。例えば中部中学校に西部小と北部小が合わさって小中一貫にする。中央小と塩津小の一部、西部小の一部を吸収して、新たな小中一貫校の新設も考えてもよいだろう。

③ 子育てしやすい環境づくり

園児が多いと先生の目の届き方が違うため、保育園の規模は重要だ。

- ・ 保育園の人数が多いと先生の目の届き方が違うと感じている。1園あたりの規模が重要。特に子どもが小さいと先生と保護者の交流が大切と考えている。

送迎の利便性や待機児童の可能性を考慮して保育園配置を検討してほしい。

- ・ 待機児童が生じないかどうか。車での送迎ができるなら2園でも十分かもしれないし、送迎が難しいようなら距離的にも3園あるほうがよいかもしれない。

保育園を整備する際は車での送迎を考慮し、駐車場の確保や安全対策を考えてほしい。

- ・ 車での送迎を考え、駐車場の確保、安全対策を考慮してほしい。

④ 高齢者の居場所づくり

⑤ 安全・安心

複合化には防犯対策等、安全の確保が大切だ。

- ・ 複合化することで多様な方が交流するメリットがあるが、安全性が確保できる配置であることが大切。防犯の対策がなされる設計であることが大切。

災害を考えると、徒歩圏内に安全な場所があることが大切だ。

- ・ 災害を考えると遠くに避難所があると、高齢者の方は行くことをあきらめてしまうかもしれない。徒歩圏内に安全な場所があることが大切だと思う。

⑥ 利便性の確保

公共交通機関の充実など施設へのアクセス確保は大切にしていきたい。

- ・ 公共交通機関の充実など、公共施設へのアクセスの確保は大切にしていきたい。

学区が広がる場合、スクールバスなどアクセス向上がポイントとなる。

- ・ 小中一貫校や小中隣接など、複合化にあたっては学区が広がるため、スクールバスなどアクセス向上が重要なポイントである。

距離だけでなく、夏場の熱中症や事故・犯罪予防のために、スクールバスを検討してほしい。子どもが減るので集団通学もできなくなっていくことも懸念される。

- ・ 距離だけでなく夏場の熱中症や事故・犯罪予防、安全な通学のために、スクールバスを検討しても良いのではないかと懸念される。子どもが減るので集団通学もできなくなっていくことが懸念される。

⑦ 将来負担の縮減

⑧ その他

複合化する施設の敷地面積を十分に確保してほしい。

- ・ 公共施設の複合化で施設の敷地面積が十分に確保できるのか不安がある。

施設整備のプロセスを示せるとよい。

- ・ 段階的に整備していくプロセスを示せるとよい。

計画策定の際は、ワークショップ参加者だけでなく地元の合意を得るべきだ。

- ・ 計画策定の際は、ワークショップ参加者だけでなく広く地域の方にアンケートを取るなど、地元のコンセンサスを取るべき。

蒲郡北地区は3つの小学校があり、それぞれ地域のつながりができている。それを守りつつ、より良いありかたを築ける公共施設になるとよい。

- ・ 蒲郡北地区に3つの小学校が出来て、それぞれの地域のかかわり方、連携が形成されて時間もたっている。それを守りつつ、より良いありかたを築ける公共施設になるとよい。

蒲郡市の地政学的な特徴を活かした公共施設の配置となるとよい。

- ・ 蒲郡市の地政学的な特徴（海に面している、東西に長く南北に短い）を活かした公共施設の配置を考えるのが良いのではないかと懸念される。

施設跡地は避難所や生涯学習施設、市民プール等に活用してほしい。

- ・ 廃止される施設がその後どのような活用をされるのかの方針が重要である。特に避難所としての機能が残るのかどうか等は、活用の意味合いとして大きい。
- ・ 再配置をした後の施設を生涯学習機関にするなど新しい使い方を考えていくのが良いだろう。例としてE案で西部小と北部小が中部中学校に統合したときに、残ったそれぞれの小学校を課外活動で利用するなど。
- ・ 跡地利用として市民プールを提案したい。中央小の跡地にプールが出来ると、ワークショップ対象施設の再編についても合意形成が得られやすいだろう。

「再配置後の施設は地域で活用法を検討」という案もあるが、施設の状況によっては取り壊しという選択も可能としてほしい。

- ・「再配置後（廃止後）の施設は地域で活用法を検討」とあるが、老朽化もあるので取り壊しという判断であれば、それも可能ということでしょうか？

2. その他

【学校規模について】

現在の西部小のように1学年5～6人であっても、小規模のほうが良い。

- ・現状の西部小は少ない学年で5～6人となっているが、5～6人規模でも小規模のほうが良いと思う。ほかの保護者からも同意見を聞く。

学級の規模については、一長一短ある。他の方の意見も聞いてみたい。

- ・クラス人数の多い少ないは、それぞれにメリットとデメリットがあり一長一短。
- ・西部小と北部小が統合すると、1学年2クラスは変わらないが、1クラスあたりの児童数が増えることを他の方がどう考えるか意見を聞きたい。

できる子・できない子がクラス内で固定化されてしまうため、学級規模は大きい方がよい。また複数学級ならば色々な先生に教えてもらうことができ、子どもにとってよい。

- ・クラス人数が少なすぎると、できる子・できない子の基準が偏ってしまう心配もある。
- ・1学年のクラス数は1クラスより多い方がよい。クラス数が増えているいろいろな先生に教えてもらう方が子どもにとって良いと思う。先生もいろいろタイプがあるから。

学校によって学級規模が極端に違うと、不平等だと不満がでないか心配だ。

- ・小学校ごとにクラス人数が大きく違うと、双方で不平等だと不満がでないか懸念する。
- ・西部小だけ極端に少ないクラス人数が維持される場合、児童1人あたりの維持費用も大きくなるし、他の学校の父母から不平等と不満がでるのではないかと心配する。

西部小と北部小が統合しても、10年後には今よりも児童数が減り、北部小からすると学級規模も変わらないため影響は少ない。

- ・来年からではなく10年後とかを考えれば、今よりさらに児童数が減っているのだから、統合しても北部小からみればあまり変わらない状況なのかと考える。

学級規模やクラス数等については、国や市の基準をふまえて決めていけばよい。

- ・国や教育委員会の基準に沿っているのだから30人規模のクラスでも問題はないと思う。ただ、小学校の低学年だと人数はもっと少ない方がよいかもしれない。
- ・1クラスの人数は多いより少ない方がよいと思うが、何人までが適正かは国や市の基準でよいと思う。昔より教員の仕事が増えて労働環境が問題になっている点では少人

数の方がよいかもかもしれない。

【その他】

50年後のことであれば、総代区の問題や学区の変更などは気にならない。

- ・ 50年後の世界を考えると、総代区の問題や学区の変更などは気にならない。

複合化しても施設に大きな費用がかかるのではないだろうか。長寿命化の方が納得しやすい。

- ・ 複合化によって人件費は削減しても、施設に大きな費用がかかるのではないだろうか。長寿命化を図りながら進める方が納得しやすい。

古い公民館を維持していくよりも、使い勝手のよい新しい公民館にしたい。

- ・ 古い公民館を維持していくよりも、使い勝手のよい新しい公民館にしていきたいのが良い。

<総括>

蒲郡北地区（中部中学校区）は、コミュニティの規模や現在に至る背景が異なる3つの地域から構成されており、様々な観点からいくつかの案に期待が寄せられた。

教育環境を向上させる観点からは、西部小学校と北部小学校を中部中学校敷地で集合する案に期待が集まった。片方の学校をもう片方へ統合するのではなく、両地区の中間に位置する中部中学校敷地で新しい学校をつくる点も評価された。中でも、現在の西部地区から地域の拠点となる公共施設がなくなってしまう懸念から、中部中学校が西部小学校敷地へ移転するF案に期待する声が多く寄せられた。

また、コミュニティの形成過程を重視する観点からは、西部地区と北部地区で小学校と公民館、保育園が集合するC案に期待が集まった一方で、現在適正規模である中央小学校を分割再編することへの懸念の声もあった。

その他、現在の地域コミュニティを維持していく観点から現在の小学校区ごとに施設を集合するD案に期待する声や、9年間を意識した新しい教育を導入するという観点から小中学校を同一敷地内に整備するE・G案に期待する声もあった。

以上のように様々なご意見をいただいたが、子どもの教育環境や安全の確保、コミュニティの活性化など、ワークショップ参加者が認識している地区の課題には多くの共通点があった。